

# 出土遺物を活用した出張授業の実践

西田 真吾・小峰 俊章

## 1 はじめに

教育基本法や学校教育法、学習指導要領において「伝統や文化の尊重」が重視され、博物館などの教育機関との連携はさらにクローズアップされている。小学校学習指導要領社会科の「指導計画の作成と各学年の内容の取扱い」では、「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行うようにすること」と記されている。博物館の素材、人材を活用することにより、学びが広がり、深まり、学びを豊かにすることにつながる。

一方で学校では、学校行事の精選がなされ、新たに校外行事を増やすことは難しい状況にある。そこで、博物館の側から外に出ていく出張授業のような、いわゆる「アウトリーチ活動」が必要とされている。学校にとっては、博物館の資料や学芸員に、教室に居ながらにして出会うことができるよさがある。博物館が新たな利用者を獲得するためにも、様々なアウトリーチ活動を試みる必要がある。

当館では、昨年度より出張授業を開始し、社会科・総合的な学習の時間での取組を行った。本事業を通して当館の活動をより多くの学校に知ってもらい、連携を深めるとともに、児童生徒の郷土の歴史に対する興味・関心を高めるようにすることがねらいである。小学校社会科の古墳時代の学習で「遺物」をテーマとした授業展開は例が少ないが、以下の実践記録の通り、児童が古墳時代に興味・関心をもち、理解するための一つの切り口として参考になるのではないかと考える。

## 2 出張授業に向けて

### (1) 実施校の募集・決定

対象学校の選定にあたっては、4月当初に県内北部地域（秩父地方を除く）、東部地域（久喜市以北）の平成26年度埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用事業「古代から教室へのメッセージ」に選考されなかった小学校50校に照会をした。全県一斉に募集をすることは混乱につながると考え、地域を限定しその中でこの事業に関心の高い学校に対象を絞った。

募集にあたり、平成26年3月に行われた上記「古代から教室へのメッセージ」事業の指導委員会（県教育局生涯学習文化財課・各教育事務所・埼玉県埋蔵文化財調査事業団）に出席し、平成26年度も引き続き出張授業を実施すること、募集地域、対象学校について説明をした。4月末日の締め切りまでに14校の応募があった。

本年度の出張授業は以下の通り実施した。

	日時	学校名	学年・科目	人数
1	5月27日	美里町立松久小学校	6学年・社会科	42人
2	5月28日	加須市立北川辺東小学校	6学年・社会科	37人
3	5月29日	深谷市立幡羅小学校	6学年・社会科	96人
4	5月30日	羽生市立羽生北小学校	6学年・社会科	87人
5	6月3日	熊谷市立佐谷田小学校	6学年・社会科	57人
6	6月5日	加須市立田ヶ谷小学校	6学年・社会科	29人
7	6月9日	深谷市立川本北小学校	6学年・社会科	87人
8	6月11日	熊谷市立長井小学校	6学年・社会科	71人
9	6月17日	本庄市立藤田小学校	6学年・社会科	23人
10	6月20日	熊谷市立大麻生小学校	6学年・社会科	53人
11	6月27日	深谷市立深谷西小学校	6学年・社会科	106人
12	7月1日	行田市立東小学校	6学年・社会科	76人
13	7月2日	行田市立南小学校	6学年・社会科	58人
14	7月4日	久喜市立桜田小学校	6学年・社会科	84人

合 計 14校 30学級 906人

## (2) 授業の構想

導入では、興味・関心を高め、児童相互の交流を促すために「縄文土器片」と「須恵器片」に触れ、どちらが時代の新しいものかを予想する場面を設定した。展開の場面も、解説中心の授業ではなく、児童の「知りたい」に答える授業をめざして構想した。本時の目標は「古墳や遺物などについて話を聞いたり、実際にさわったりすることを通して、古墳について関心を高めるとともに、古墳や遺物の特徴や役割について理解することができるようとする。」である。遺物に実際に触れ、そこで感じたことや疑問に思ったことを取り上げながら展開できるよう、遺物に触れたり、学芸員に質問したりする時間を十分に確保した。また、授業の対象を主に第6学年としているため、教科書に記載されている「金錯銘鉄剣」のレプリカを用意し解説をした。

各校とも当館の学芸員と広報・学習支援担当職員の2名が授業を行った。学芸員が主に遺物の解説をし、広報・学習支援担当職員が主に授業の進行をした。

## (3) 使用資料の選定

実物資料は、古墳時代の代表的な遺物として「円筒埴輪」「人物埴輪」「動物埴輪」と「金錯銘鉄剣」のレプリカ（3Dプリンターで作成したもの）を用意した。選定の基準は、「学習内容と関わりのあるもの」、「児童の興味をひくもの」、「新たな発見や、なるほどと思うような事実を知ることができるもの」、などである。人物埴輪は半身と頭部の両方を用意した。男女の違いに気づくことができるようするために、頭部の人物埴輪は男女1組にした。動物埴輪は適度な大きさで、児童の興味をひく形をした猪形埴輪と水鳥形埴輪を選定した。

### 【使用資料】

- ・人物（馬飼）埴輪（伝・川本町舟山古墳）・人物（頭部）埴輪（本庄市生野山遺跡）
- ・円筒埴輪（杉戸町瓢箪塚古墳）・人物（頭部）埴輪（東松山市古凍根岸裏遺跡）
- ・動物（猪形）埴輪（鴻巣市新屋敷遺跡）・動物（水鳥形）埴輪（加須市小沼耕地遺跡）
- ・金錯名鉄剣レプリカ（当館蔵）

### （4）実施校との打合せ

実施校に事前に訪問し、打合せを実施した。時間、人数、当日授業を行う教室（図工室・理科室等大きく、安定した机のある場所を希望）、資料の搬入口、搬入方法を確認した。各校で先生方の授業への要望を伺ったところ、「実物にたくさん触れさせてあげたい」という意見がほとんどであった。この出張授業の重要なポイントは、「教室で受けられる」こととともに、「実物に触れる」ということである。打ち合わせをする中で、この点を重視して授業を展開すべきであるということを改めて感じた。

## 3 授業の実際

### （1）授業の詳細

①土器片を観察する。

4～6人のグループにA縄文土器とB須恵器のかけらを用意した。「どちらが新しい時代のものか、実際に触ってみながら考えてみよう。」と投げかけた。2～3分後理由をつけて発表を行った。

この活動の目的は、①授業の導入で直接土器に触ることにより、興味・関心を高める、②グループで考えを話し合い、選んだ理由を発表しあう「思考・判断・表現」の場面とする、③外部の指導者による授業で硬くなりがちな雰囲気を和ませる、である。児童は活発に話し合いを進めていた。



### 【児童の反応】

- ・欠けている断面をみると、Aの方が荒く、Bの方がしっかりしているので、Bが新しい技術で作ったものだと思う。
- ・Aは、縄目模様があるので「縄文土器」だと思う。だからAの方が古い。
- ・Aの方が厚く、Bの方が薄いのでBのほうが新しいと思う。

大部分の児童がBの須恵器を新しいものと選び、これまで学んできたことを生かして理由を述べることができていた。

Bが「須恵器」であることとその特徴を伝え、この須恵器のように新しい技術が大陸から伝わってきた古墳時代の学習をするということを確認した。

## ②学習課題をつかむ

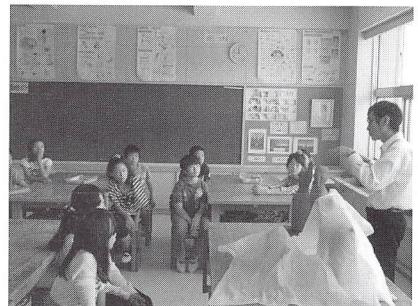
稲荷山古墳の航空写真を提示し、「古墳」・「遺物」について確認した。そして学習課題である「古墳時代の遺物についてくわしく知ろう。」を提示した。

## ③遺物について知り、観察する。

始めに、学芸員よりそれぞれの遺物の説明を行った。児童が遺物に触れたり観察したりする時間を十分確保するために、ここでの説明は、出土する場所、大まかな役割等必要最小限にした。

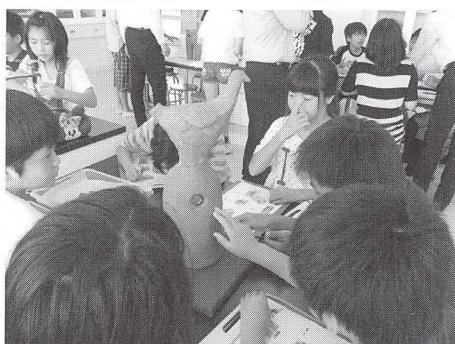
全体での説明の後、遺物はそれぞれの机に移動し、広報・学習支援担当職員から遺物に触れる際の注意点等を話した。

その後、15～20分程度児童が自由に各机に置かれた遺物を詳しく観察する時間とした。その際に、学芸員は各机をまわり、児童たちの質問に答えたり、遺物についての詳しい説明を加えたりした。



### 【児童の反応】

- |           |                                 |
|-----------|---------------------------------|
| 円筒埴輪      | ：穴があいているのはなぜだろう。縦じまの線は何だろう。     |
| 人物（馬子）埴輪  | ：なぜ手を挙げているのだろう。何をしているところだろう。    |
| 人物（頭部）埴輪  | ：どちらが男だろう。どうやって見分けるのだろう。        |
| 動物（猪形）埴輪  | ：たてがみがついているから馬だと思う。なぜいのししなのだろう。 |
| 動物（水鳥形）   | ：何の鳥だろう。なぜ水鳥を古墳においたのだろう。        |
| 金錯銘鉄劍レプリカ | ：「ワカタケル」がかいてある。思ったよりも長い。<br>など  |



#### ④感想発表

全体の前で感想発表を行った。質問等が出た場合は、その場で学芸員が応答した。全員に知ってほしい内容についてはこちらから「～はどうでしたか」と投げかけ、知っている児童が答えることによって、全員がその内容を共有できるようにした。

#### ⑤「埼玉古墳群」と「金錯銘鉄剣」についての紹介を聞く。

博物館には、他にも様々な埴輪があること、本物の「金錯銘鉄剣」があること、大型の古墳が整備され、登ったり、間近で見られたりすること等を広報・学習支援担当職員から話し、興味をもった児童は博物館や埼玉古墳群に来てさらに詳しく知ることができることを伝えた。

### (2) 授業の展開

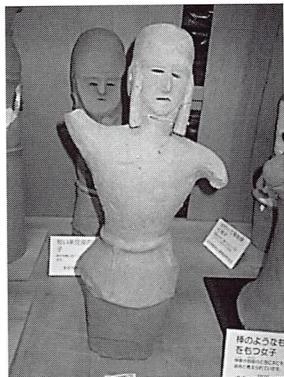
時間	学習活動・学習内容	発問・指示等	資料
10	<p>自己紹介</p> <p>1 土器片を観察する。 ○県内遺跡から出土した「縄文土器」、「須恵器」片を手に取り、その違いを観察する。 ・色、厚さ、時代の新旧等の違い</p>	<p>みんなの机の上に、作られた時代の違うAとBの2種類の土器片があります。どちらが時代の新しいものでしょうか。見たり、触ったりして考えてみてください。</p> <p>分かった人は手を挙げて下さい。(数名を指名)</p> <p>答えはBです。これは古墳時代につくられたもので「須恵器」と呼ばれています。</p> <p>みなさんが発表してくれたように、薄くて硬い土器です。この作り方は中国大陸から伝わってきました。</p> <p>今から約1500年前の古墳時代には、各地にたくさんの古墳が作されました。(稲荷山古墳の写真掲示)</p> <p>古墳からは埴輪などたくさんのが出土します。これらを「遺物」と呼びます。</p> <p>今日は、みんなに古墳時代の遺物についてくわしく知ってもらいたいと思います。</p>	縄文土器片 須恵器片
	2 課題をつかむ	<p>古墳時代の遺物についてくわしく知ろう。</p>	

5	3 遺物について知り、観察する。 ○学芸員の紹介を聞き、遺物の役割や特徴について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物埴輪、円筒埴輪などが古墳のどこで多く出土するか、またその役割について実物を示しながら紹介</li> <li>(1) 人物埴輪           <ul style="list-style-type: none"> <li>・造り出しから出土する</li> <li>・男か、女か</li> </ul> </li> <li>(2) 円筒埴輪           <ul style="list-style-type: none"> <li>・底がない</li> <li>・神聖な場所として区別</li> <li>・6000個が出土</li> </ul> </li> <li>(3) 動物埴輪           <ul style="list-style-type: none"> <li>・造り出しから出土</li> <li>・何の動物か</li> </ul> </li> <li>(5) 金錯銘鉄剣           <ul style="list-style-type: none"> <li>・金の115文字が刻まれている</li> <li>・100年に一度の大発見だった</li> </ul> </li> </ul> <p>では、遺物を近くで見たり、触れたりしてみます。約束があります。</p> <p>①すべて本物です。大切な文化財なので気を付けて触ってください。</p> <p>②持ち上げたり、べたべた触ったりしないで、優しく触ってください。</p> <p>③人物埴輪の顔はさわらないようにしてください。</p> <p>では、観察をしましょう。</p> <p>学芸員による紹介（回りながら）</p> <p>みんなが感じたことを発表してください。 (分かったことを交流し合う。 約5分)</p>	<p>人物埴輪 円筒埴輪 動物埴輪</p> <p>↓ 教卓の上に紹介しながら置く</p> <p>↓ 児童の机に運ぶ</p>	
25	○遺物を観察し、感想を発表し合う。		ワークシート	
5	4まとめ ○「埼玉古墳群」と「金錯銘鉄剣」の紹介を聞く。 ・埼玉古墳群について ・国宝「金錯銘鉄剣」について	<p>(広報・学習支援担当による紹介)</p> <p>最後に埼玉古墳群と、国宝「金錯銘鉄剣」の紹介します。</p> <p>大型古墳が狭い範囲に9基もある、全国的に見ても珍しい古墳群です。この丸墓山古墳は、日本一大きな円墳で、映画「のぼうの城」でも有名になりました。この二子山古墳は、かつての武藏の国、今の埼玉、東京と神奈川県の一部で最も大きな古墳です。</p> <p>これは稻荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣です。教科書にも載っているので、教室に帰ったら見てください。これには115文字の金の文字が刻まれており、当時の様子を伝える貴重な史料であるため、国宝に指定されています。</p> <p>埼玉古墳群とさきたま史跡の博物館に来るとこれらを見ることができますので、みなさんも是非来てください。</p>	<p>埼玉古墳群 空撮</p> <p>鉄剣レプリカ</p>	

(3) ワークシート

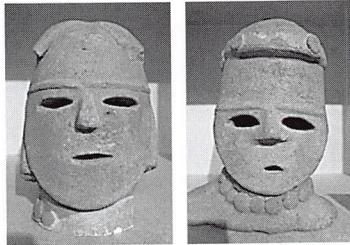
学芸員の話をメモしたり、さわった感想を書いたりしましょう。

## 6年 組 名前 ( )



メモ・感想

じんがつは に わ  
**人物埴輪**



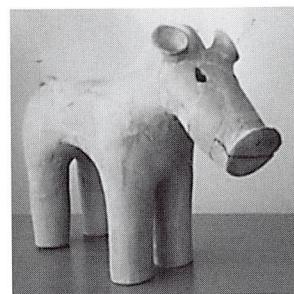
メモ・感想

男性の 女性の  
はにわ はにわ  
**埴輪 売輪**



メモ・感想

えんとうは に わ  
**円筒埴輪**



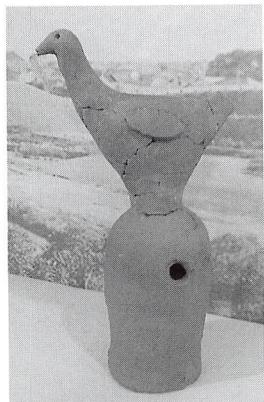
メモ・感想

どうがつは に わ  
**動物埴輪**



メモ・感想

きんさくめい  
**金錯銘**  
てつけん  
**鉄劍**



メモ・感想

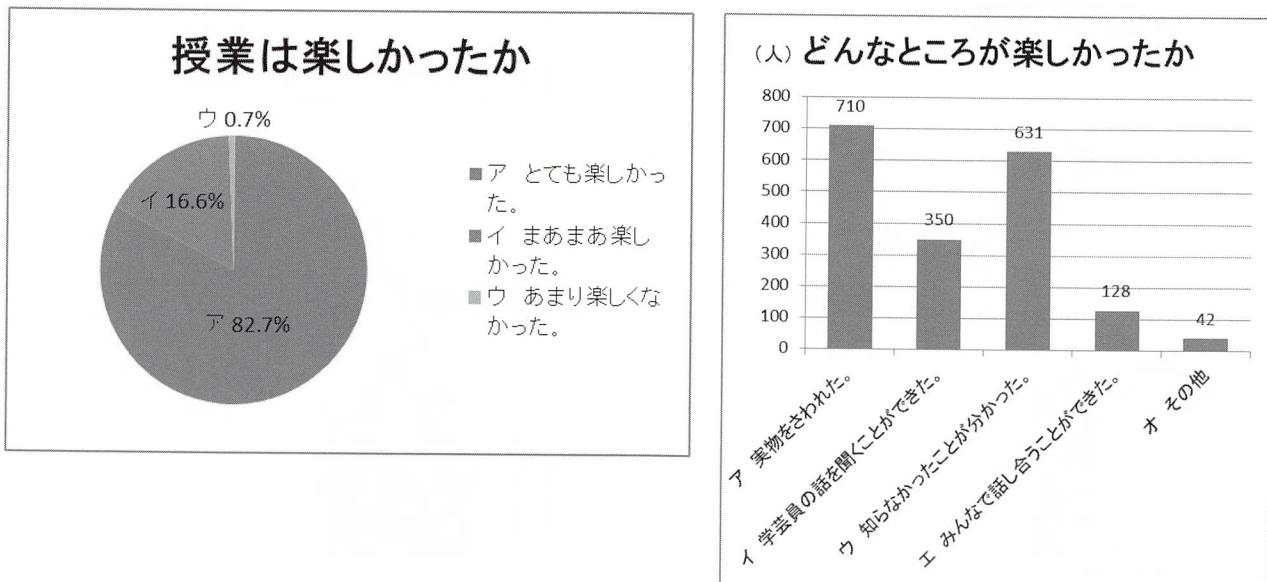
どうがつは に わ  
**動物埴輪**

#### 4 アンケート結果

「授業は楽しかったか」という問い合わせに対して82.7%の児童が「とても楽しかった」と回答した。

「どんなところが楽しかったか」という問い合わせに対しては、「実物をさわれた。」と回答した児童が多かった。やはり、普段見ることができても、实物に触れる機会は少なく、新鮮に感じられたようである。また、「知らなかったことが分かった。」「学芸員の話を聞くことができた。」というように教科書等に書かれていらない詳しいことまで話を聞くことで、理解を深めることができたと考えられる。

その他感想の中には、「博物館で本物を見たくなった。」「歴史の授業が楽しくなった、好きになった。」と答えた児童もいた。本事業を通して、歴史に対する興味関心を高めることができたと考えられる。



#### 5 今後の課題

実施期間について、5月下旬から7月上旬までの期間で募集でしたが、学校での古墳時代の学習が4月下旬から5月上旬にかけて行われるので、学校としてはなるべく近い時期に実施したいという希望がある。今後、新たな授業プログラムの開発や、3学期に5年生向けに実施するなどしていくことを検討している。

授業内容・使用遺物については、概ね今年度の内容で効果を挙げられたと考えられる。

しかし、もっと他の遺物を見たい、古墳時代の人々の生活の様子を知りたいという意見や、観察する時間を長くしてほしい、映像が見たいなどの要望もある。打ち合わせの際、それぞれの学校の要望を把握し、応えていくことにより、満足度の高い事業になるとを考えられる。

出張授業を受けたことで、古墳や埴輪などに興味をもってたくさんの児童が来館した。このような児童をさらに増やすことができるよう、事業の実施方法と授業の工夫・改善を進めていきたい。